

しせいがい

Shiseikai

夏の号

vol.62

2012.7

医療法人 志誠会
平和病院

Summer Contents

- 第25回 志誠会医学会
- 平成24年度 家族会定期総会
- 精神科の窓「ギャンブル依存症について」
- ありんくりん、施設見学ボランティア

ホームページアドレス <http://www5.ocn.ne.jp/~heiwahsp/>

第25回 志誠会医学会

平和病院の変遷と社会復帰の展望

平成24年6月28日(木)、平和病院第1講堂において「平和病院の精神医療のあゆみ」～社会復帰をめざして～をテーマに、第25回志誠会医学会を開催しました。午前の部は一般演題を中心に行われ、各部署の取り組み13題が発表されました。平和病院看護師からは認知行動療法の関わりや入院患者への家族支援、認知症高齢者の退院支援、陽光館介護福祉士からは、認知症高齢者への傾聴の試み、感染症対策、老健施設での在宅復帰の状況等の報告が行われました。

5年間の検証と今後の展望

午後の部は、「平和病院のめざす医療とは」～未来に向けての展望～と題してシンポジウムが行われ、小渡理事長を座長に、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、介護福祉士、事務職員等8名が第5次5カ年計画(2007/05～2012/04)に関する取り組みの検証と、今後の課題についての報告を行いました。その中で宮城則孝副院長からは、治療でポイントとなる精神疾患に対する理解や、向精神薬による副作用の軽減にむけた薬物の減量や単剤化の検討、比嘉和枝看護副部長からは、急性期治療病棟でのトイレのない保護室など病棟構造の変化と電子カルテ導入による業務の効率化と職員の意識改革、カウンセリングナースの育成など精神科看護の専門性について報告がありました。また社会復帰施設部栄野比千秋課長からは、障害者自立支援法制定による施設体系の転換による当施設の就労リハビリ、生活リハビリの見直しと強化について、陽光館介護福祉士古謝雅子課長からは、介護職員のスキルアップや今回18名が合格した介護福祉士国家資格取得に関する取り組み報告が行われました。



小渡理事長は、第5次5カ年計画の計画外の出来事として電子カルテ導入や病院敷地内全面禁煙の実施をあげ、今後もさらに第6次5カ年計画の達成に向けて職員一丸となって頑張りたいと結びました。

今学会の優秀論文賞には、10年間継続して取り組んだ結果、当施設における就労訓練の有効性が証明され、なおかつ一般就労に結びつく等社会復帰に貢献している、今後更なる期待を抱かせるとい



うことから「精神障害者に対する就業リハビリテーションの再考～製パン訓練10年間の変遷を基に～」を発表した社会復帰施設部・就労訓練指導員の眞榮田郁さんが受賞しました。



ふれあい看護体験



今年も5月12日の看護の日(ちなみ、5月8日(火)近隣の高校6校から1年生～3年生までの計23名を受け入れました。午前中は平和病院の病棟、就労訓練工場、社会復帰施設、介護老人保健施設陽光館を見学し、午後は2グループに分かれて精神科作業療法や陽光館での介護体験に参加しました

精神科での看護体験ということに戸惑いを感じていた学生もいたようですが、一日の体験を終えた感想の中で「(患者さんが)優しく声をかけてくれた」「活動(リハビリ)に楽しそうに参加していた」「一般の病院と変わらない」など意見も聞かれ、これまでの精神科病院や精神障害者への「怖い」「近寄りがたい」イメージを払拭するのによい機会になったようでした。

ふれあい看護体験は1日と短い時間でしたが、看護師や介護福祉士の仕事を直接見たり聞いたりすることは学生にとっていい経験になったようで、このような取り組みが進路を決める良い機会になったと思います。医療従事者を目指す気持ちが強くなった等の感想も聞かれ、なかには1年生で看護の道へ進みたいとの決意している学生もあり、早い段階で将来を見据えている学生もいることに感心しました。今後は勉学に励み、自分の将来の目標を達成して欲しいと思います。

看護の日(ナイチンゲールの日)とは?

1974年に制定された毎年5月12日の国際ナースデーで、日本では1990年に“国民の看護及び看護職に対する理解を深めるとともに、その社会的評価を高めていくための記念日”として看護週間(5月12日を含む週の日曜日から土曜日迄)とともに制定されました。看護の日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由来し、老若男女誰もが看護の心、ケアの心、助け合いの心を育むきっかけになるようにとの願いが込められています。

■ 沖縄県は男性看護師の割合日本一!

ちなみに、沖縄県は2006年の厚生労働省の調査で、男性看護師の割合が全国平均(4.6%)を大きく上回り1位でした(12.8%)。関係者によると、雇用が不安定な沖縄では、専門資格を持ち安定した収入が得られることも男性が多い理由ではないかと分析しています。そして、この10年間では1000人の男性看護師が誕生しているとされています。



設立理念

1. 当院は新しい精神医療を行うことを目的とする
2. 精神障害者及びその家族の立場に立ち可能な限り物心両面から援助を行う
3. 作業療法、レクリエーション等を再検討し真に社会復帰に結びつく療法を確立する
4. 地域精神医療を行う
5. 精神医学、精神医療の発展に結びつく研究を行う
6. 病院運営にあたっては一般企業並みの経営を行い医療は最新かつ高度なものとする

25周年記念誌を発刊

平和病院は、おかげさまをもちまして今年で25周年を迎えました。これもひとえに地域の皆様のご指導、ご協力によるものと感謝致しております。そして5年毎に記念誌を発刊し、今回も平和病院、陽光館、社会復帰施設の取り組みについて検証しました。これからも地域にひらかれた病院・施設を目指し、職員一同まい進していく所存です。今後とも宜しくお願いいたします。



～平成24年度 家族会定期総会～

5月12日(土)、平成24年度家族会定期総会を開催しました。今回は、「精神医療の動向」と題し、平和病院 小渡敬院長による講話を行い、精神治療の発展・普及や法制度について現在までの移り変わりをお話して頂きました。講話の中で小渡院長は、平和病院設立当時は精神障がい者への偏見が根強く、地域の受入れ体制も治療そのものも欧米諸国に遅れをとっていた時代背景があったと振り返り、WHOの働きかけで精神障がい者に対する施策を5年ごとに見直すようになり、徐々にではあるが地域でのサポート体制、治療の基盤が整備されてきたと話していました。

日本においては近年の著しい高齢化により85歳以上では約25%の方々が認知症を患っている現状があり、当院外来でも認知症の受診が増えていることを話されていました。また日本では毎年3万人を超える自殺者がおり、そのうち約7割がうつ病だといわれ、20～25人に1人の方がうつ病になる可能性があるといわれています。その自殺予防の取り組みとして各県で「ゲートキーパー」の活動が行われていることを紹介していました。近年では精神疾患も身近な病気として認知されてきた現状と、心療内科・精神科クリニックなど身近に治療施設が増えてきたことが、精神科への敷居を低くしている現状を報告されていました。(県内で精神科病院は約20、クリニックは50以上あり)。

このように社会情勢が変化していく中で施策も徐々に整備され、精神障がい者が福祉の対象となり、通所型サービス、在宅型サービスの充実が図られてきたことを強調していました。講話終了後の質疑応答では今後の精神医療の更なる進歩を期待するご家族の声が聞かれ活発な意見交換が行われました。

後半は総会に移り、昨年度の事業報告及び収支決算報告、今年度の事業計画や収支予算報告等の審議が行われ承認を得ました。その後、懇談会では家族同士の日々の悩みを話し合ったり、情報交換等を行い交流を深めました。今後ともご家族が一人で悩まず、共に手を取り合っていけるような会にして行きたいと思います。引き続き、家族会へのご協力・ご参加を宜しくお願い致します。



記念日カレンダー

苗字の日 ～明治8年制定～

Sep
19
苗字の日

ここでは、7月～9月までの祝日や記念日にまつわる話題を提供したいと思います。

今回は9月19日(水)の苗字の日です。1870年(明治3年)9月19日の「平民苗字許可令」により、一般の「平民」も苗字を持つことが認められました。しかし当時の国民はあえて苗字を名乗ろうとしなかったため、1875年(明治8年)2月13日、明治政府が「へいみんみょうじひつしやうぎ平民苗字必称義務令」を出し、すべての国民に苗字(名字・姓)を名乗ることを義務付けました。このため2月13日は苗字制定記念日、9月19日は苗字の日とされています。

沖縄県は独特な苗字が多いとされますが、最近では多くの芸能人やスポーツ選手の活躍で、具志堅や宮里、諸見里などの苗字は有名になりました。また日本全国ではどの県でも佐藤・高橋・鈴木・佐々木などの苗字が上位にランクインしますが、沖縄では約1500以上(全国では約29万件・平成9年)とされる苗字の中でも比嘉・金城・大城・宮城・上原・照屋などがランクインし、なかでも珍しい苗字として、根路銘・喜友名・古謝・銘苅、さらに仲吉・仲間など楽しくなるような苗字が多いのも特徴です。

沖縄の苗字は難読・珍奇なものとして、時代によっては偏見と差別、生活上での不便を強いられ、本土風の「読み替え」が提起されていったこともありました。

さて、あなたの苗字はどんな由来があるのか、身近な歴史をひもといてみませんか？

ほかにもいろんな記念日があります

終戦記念日 …… 8月15日
やさいの日 …… 8月31日
救急の日 …… 9月9日
敬老の日 …… 9月第3月曜日
沖縄そばの日 …… 10月17日

平和病院と陽光館の 上位ランキング

1位 …… 比嘉15人
2位 …… 新垣10人
大城10人
3位 …… 宮城8人
島袋8人

ギャンブル依存症について

ギャンブル依存症とは、ギャンブルをしたいという欲求や衝動を抑えることができず、ギャンブルに関する事柄が頭から離れないような状態で、それがより深刻になるとギャンブルのために家族や友人、職場などの大切な人間関係などを損なうなど社会的な生活に支障をきたすような病的な状態となります。

依存者本人だけでなく家族など周囲の人へ与える影響が大きいにも関わらず、未だ認知度が低い精神疾患であると言えます。



いしかわ さやか
石川 悠 医師

症状

ギャンブル依存症の人には次のような症状がみられます。

- ① ギャンブルを渴望する。
- ② ギャンブルを制御することが困難である。
- ③ ギャンブルをしないと離脱症状
(集中力の低下、感情の乱れ、発汗、手の震え、不眠、幻視など)に見舞われる。
- ④ ギャンブルをする頻度が増える、賭け金が増加する、リスクの高い賭け方をするといった耐性が生じる。
- ⑤ ギャンブル以外の事柄への関心が低下する。
- ⑥ ギャンブルをするせいで借金などの問題が生じているにも関わらずやめられずに続けてしまう。

特徴

依存者によくみられる特徴として、「否認」があります。否認とは、自らにギャンブルに問題があると認めようとせず、問題を過小評価してしまうことです。ギャンブル依存症の症状を知っていても、「自分とは違う」と感じる傾向があるため、病識を持ち、治療に向けての行動を開始する大きな妨げとなります。

さらに、ギャンブル依存症の人はあらゆる人間関係を駆使してお金を工面しようとする傾向があり、「借金」と「嘘」を繰り返します。例えば、適当な理由をつけて遠い親戚から借金をする、職場から給料や退職金を前借りしようとするまであります。しかし、そういったギャンブル依存者を家族が支え、本人が起こした問題のフォローをしてしまうことによって、本人が問題に直面することなく生活を送ることが可能となり、ギャンブル依存を続けてしまうという悪循環が生じていることが少なくありません。

治療

治療は、現時点でギャンブル依存症に対する有効な薬剤はなく、最も有効な手段は心理療法で、精神科外来への通院と自助グループへの参加があります。

自助グループとはギャンブル依存症当事者の集まりで、そこではお互いの経験や思っていることを淡々と語るのみで、助言や説教は一切ありません。そこへ通い続けるうちに他の仲間の発言に耳を傾け、気持ちを吐露するようになっていきます。そうして本来の生活を取り戻し、無理なくギャンブルのない生き方ができるようになることを目標としています。

また、ギャンブル依存症は家族に与える影響も大きく、家族が振り回され精神的な疾患を抱えている場合も少なくないため、家族のケアも重要になってきます。

精神科外来への通院の他、家族のための自助グループがあり、そこでは家族がギャンブル依存症者に対する悩みから解放され、自分は自分という生き方を身につける場となっています。

このように、ギャンブル依存症という疾患に対する治療法、環境が確立されてきていますので、自分が当てはまるのではと感じた方、周りに悩んでいる人がいる方は一度相談されてみてはいかがでしょうか。

施設が移行し活動内容も一新

自立訓練事業所しせいかい

平成24年4月から、キャンプグリーンヒル、桜邸、小桜邸、瑞穂邸が1つの自立訓練事業所となりました。グループホーム、生活訓練施設、福祉ホームBというそれぞれの特色はそのまま活かしながら、自立や社会経済活動参加に向けたリハビリテーションを模索しています。

◆ 生活訓練から入所者同士の繋がりを ◆

自立訓練事業所しせいかいでは、日中活動として「生活訓練」を展開しています。生活訓練施設だった桜邸では、4月から日課やプログラムを大幅に変更しました。4月まで毎朝、朝礼前に入所者が各自で取り組んでいた共用場所清掃を活動の一環として取り組むことになり、以前から行っている職員の居室訪問(困っていること、支援して欲しいことを気軽に相談できるフリースタイルの訪問)と共にプログラムの中心として編成しました。

活動の開始ミーティングの際、「汚れている箇所」や「苦手な清掃場所」などを挙げてもらいます。職員と一緒に取り組むことで入所者一人ひとりの清掃方法や段取りを知るという目的もありましたが、なかには問題なく取り組める入所者もあり、その方がリーダーとしてほかの入所者に清掃方法を教える機会にもなりました。この方法により入所者同士の交流がこれまで以上に

に広がり、「○○さんと一緒にやるよ。」「洗剤の量が多いよ。もう少し少なくても大丈夫。」など、自主的に声をかけたり、判断して対応する入所者が増えてきました。

また、「汚したらすぐきれいにしてほしい。」「清掃の仕方が分からない時は、聞いてほしい。」という声上がるようになりました。

自分たちの施設をきれいにする、きれいに使用するという気持ちや行動は、退所後の生活にも必要であり活かせるものです。時々小さなトラブルも生じますが、その都度話し合いを持ちながら改善していきたいと思っています。



「ジョブシャドウイング」で、なっかに?

陽光館で児童2名が体験

「ジョブシャドウイング」?なかなか聞き慣れない言葉ですが、皆さんはご存じでしょうか?「ジョブシャドウイング」とは、事業所を訪れそこで働く従業員に「影」のように密着し、実際に仕事を体験するのではなく**“仕事をする大人を観察する”**ものです。うるま市では、子ども達が実際に働く大人に接し、仕事の楽しさ・働くことの意義・職種に関する知識を身につけることで、将来の夢や進路を考えるきっかけ作りを目的に実施しています。

陽光館でも6月19日の兼原小学校6年生2名の受け入れを機に、今後は7月に中原小学校6年生2名、8月に具志川小学校6年生2名の児童を受け入れる予定です。

今回、ジョブシャドウイングに参加した2名の生徒は、影のように介護職員の仕事に密着し、初めて訪れる高齢者施設で緊張しながらも、一所懸命観察していました。終了後は、「(見ていだけでも)介護のお仕事は大変そう」と感想がありました。



兼原小学校6年生の伊藝さんと宜寿次さん

この夏の **ありんくりん**



看護や介護の専門職として知識と技術を活かす

…… 新職員オリエンテーション ……

5月21日～26日までの5日間、新職員オリエンテーションを行い、看護師や精神保健福祉士、介護福祉士など計33名が受講しました。オリエンテーションは志誠会役職会で運営され、最終日は福利厚生施設で閉講式と懇親会を行い、受講者からは「精神科医療や看護・高齢者介護の専門職として今後も頑張っていきたい」「志誠会の理念や地域における役割、チーム医療などを学んだ。今後は各部署と連携して、学んだ事を現場で実践していきたい。」等の感想が聞かれました。私たちもこれだけ沢山の仲間が増えたことはとても心強いことです。今後の活躍を期待し、共に成長していきたいと思います。



地域で自立した生活を

…… 第37回日本精神科看護学術集会 ……

6月1日～3日、第37回日本精神科看護学術集会が兵庫県で開催され、看護部の山城綾乃主任が「効果的な認知行動療法の職員教育について～療養病棟におけるセルフケアグループの援助を通して～」と題して報告しました。学術集会のテーマが「精神科看護と社会貢献」ということもあり、退院促進や地域移行支援に取り組んだ内容の論文が数多く報告されていました。

また映画試写会では、精神科病院を舞台とした「人生、ここにあり!」が放映され、そこに入院している患者が協同組合のもとで就労の場をつくり、社会復帰を目指すストーリーとなっています。社会参画する上での苦悩、地域社会の偏見等が解りやすく描写され、精神科関係の病院や施設で働く人は勿論のこと、一般の方にも視聴してほしいと思いました。発表後に、認知行動療法について「私たちの病院でも是非、取り組んでみたい」等の声が多く聞かれました。今後、精神障害(障がい)者が地域の中で自立した生活が継続できるよう支援していきたいと思います。

情報ポケット

～入局しました～



やまぐち ようすけ

山口 洋介 医師
(精神保健指定医)

6月より平和病院の医局に入りました山口です。10年前に琉球大学を卒業後、東京の桜ヶ丘記念病院、立川共済病院で精神科の医師として働いていました。

このたび平和病院で仕事をさせていただくこととなり、久しぶりの沖縄での新生活に喜びと期待で一杯です。みなさん、どうぞよろしくお願いします。

施設実習・見学・ボランティア <4～6月> 2012

平和病院

★実習及び施設見学

- 4月 ■ぐしかわ看護専門学校①(見学実習) ……43名
- ぐしかわ看護専門学校②(見学実習) ……42名
- 琉球リハビリテーション学院(施設見学) ……1名
- 5月 ■ふれあい看護体験(市内6校) ……23名
- 久田病院(施設見学) ……1名
- ぐしかわ看護専門学校(臨地実習1G) ……7名
- 6月 ■ぐしかわ看護専門学校(臨地実習2G) ……7名

陽光館

★実習及び施設見学

- 4月 ■めだかの会 ……6名
- めだかの会 ……7名
- 大正琴ボランティア ……4名
- 5月 ■ふれあい看護体験 ……11名
- めだかの会 ……7名
- めだかの会 ……7名
- 6月 ■めだかの会 ……7名
- めだかの会 ……7名
- 大正琴ボランティア ……4名
- ジョブシャドウイング ……2名



精神科・心療内科・内科

平和病院

病床数：212床（内 指定病床17床）

☐ 急性期治療病棟 ☐ 精神療養病棟 ☐ 精神科訪問看護 ☐ 精神科デイケア ☐ 精神科デイ・ナイトケア

受付/午前8:30～11:00 午後1:00～3:00

日・祝祭日は休診（木曜は新患受付行っておりません。）

電話：098-973-2000 住所：うるま市字上江洲665番地



介護老人保健施設

陽光館

入所定員：140床（認知症専門棟40床）

☐ 介護老人保健施設陽光館入所 ☐ デイケアセンター陽光館 ☐ ホームヘルプサービスセンター陽光館
☐ 居宅介護支援事業所陽光館 ☐ 短期入所療養施設陽光館
☐ 認知症グループホームあおば邸 ☐ うるま市高齢者相談センター具志川ひがし

受付/午前8:30～12:00 午後1:00～5:00 木・日・祝祭日は休館

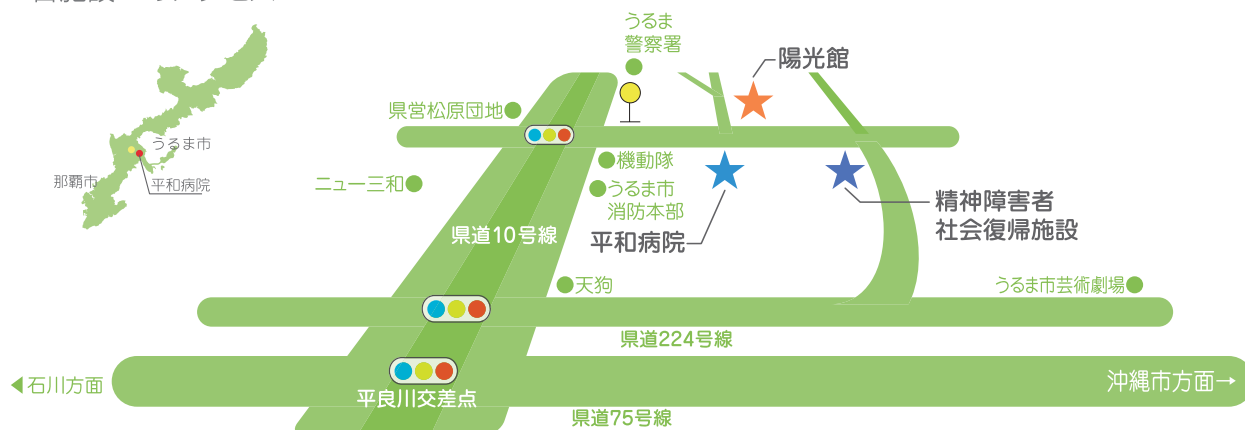
電話：098-974-4000 住所：うるま市字上江洲661番地



精神障害者社会復帰施設

☐ 一葉邸・二葉邸（グループホーム）
☐ 自立訓練事業所しせいがい（宿泊型自立訓練・生活訓練）
☐ 就労訓練工場しせいがい（多機能型）（就労移行支援・就労継続支援B型）

各施設へのアクセス



編集後記

梅雨も明け初夏の日差しが眩しい時期になりました。沖縄の暑い夏の到来です。

今年も電力不足が騒がれ、昨年よりも更に厳しい「節電」の夏になると思われませんが、ちまたではクールビズならぬ、「スーパークールビズ」なる言葉も出現！ビジネス界では「半ズボン出勤」なんて話題もラジオで流れている現状です。例えば、かなりシビアな商談で半ズボンにワイシャツを着ているビジネスマンが熱心に製品のプレゼンテーションを行うなんて、なかなか想像できませんが、近い将来実際にそんな話題がでるかも知れませんね。

そんな暑い夏を更に熱くするスポーツの祭典「ロンドンオリンピック」が、197の国と地域が参加して7月27日～8月12日開催されます。今回は初の試みでインターネットでの競技中継も予定しているのだとか…。日本とロンドンの時差は約8時間、応援に熱中するあまり、みなさんの職場でも寝不足の方をチラホラ見かけるかもしれませんね。昨年は明るい話題が少なかった分、代表選手団が日本を元気にしてくれることを願い応援したいと思います。

本誌でも触れていますが今年は「志誠会25周年記念」の節目の年です。私たち志誠会も志を新に、より柔軟な発想で今後もさらなる飛躍を目指して職員一同、日々研鑽していきたいと思ひます。

山城勝貴